

佳作

南中ソーラン

群馬県 太田市立沢野中央小学校六年 森本 美結

「かまえー!」この掛け声から始まる南中ソーランに私は三年生から毎年、参加しています。夏休み前から合同練習をして地区の夏祭りで披露するので、ソーランを始めたきっかけは、お母さんが育成会の役員になって、興味本位で始めました。

ソーランは、毎年二十人から三十人の子供達が参加して、AグループとBグループに分かれ一斉に音楽に合わせて踊り、その姿は躍動感に満ちあふれ、とても格好が良く直ぐに夢中になりました。

初めは、踊りを覚えるだけで精一杯だったので、もちろんBグループからのスタートでした。Aグループに選ばれた人は、みんな上手な人ばかりで、Bグループのノーマルな踊りとは違い、変化のある動きをして上手さが際立ちます。私は、どうしてもAグループで踊りたい気持ちで一杯になりました。ど

うしたら上手に踊れるかを自分なりに、YOUTUBEを見て、手足の動きを参考にしたり、Aグループのセンターの人にアドバイスを受けたりして、家でもお母さんに見てもらい、一生けん命練習をしました。

四年生ではBグループのトップスリーに選ばれ、五年生ではAグループに六年生の人と私のどちらかと言われ、六年生の人が最後だから、どうしてもAグループで踊りたいと言われ、私には、まだ一年チャンスがあるので自分から辞退してBグループのトップになりました。辞退した後、私はAグループに入る事を目標にしていたので、あの時、辞退しなければ五年、六年と二年間Aグループで踊れたかもしれないと思ったら、少し複雑な気持ちになりました。そして、いよいよ今年最後のチャンスに向けて、目標と気を付ける点を紙に書き出して早目に自主練習をして選考日に備えました。選ばれる基準は、学年は関係なく上手に踊れる人です。だからみんな真剣に取り組んでいるのです。初めは全員で踊り、Aグループの選考に入り、やっとAグループに入る事が出来ました。そして変化のある動きをする五人の中にも選ばれ、それだけではなくセンターにも選ば

れました。選ばれた時、何年も目標に向かって努力をしながら続けてきて本当に良かったと心から思いました。

お祭りの当日、大勢の人の前で、私の掛け声と共にソーランの音楽が始まりドキドキする気持ちをおさえ、一生けん命に踊りました。本当に一しゅんで終わってしまいました。沢山の大きな拍手の中で暑さを忘れるほど清々しい気持ちで一杯になりました。小学生最後の夏祭りの南中ソーランは、一生忘れられない私の宝物になりました。